令和７年度

航空宇宙生産技術人材育成・研究開発

プロジェクトに係る

外部評価委員会

評価結果＜概要版＞

令和７年１１月

航空宇宙生産技術人材育成・研究開発プロジェクトに係る
外部評価委員会　委員名簿

（敬称略）

委員長：柳原　正明　（日本航空宇宙学会　フェロー）

委　員：福島　明　　（日本航空宇宙工業会　調査部部長）

花井　嶺郎　（中部産業連盟　次世代を担うリーダー塾 塾長）

青山　美代子（中部経済産業局 地域経済部 航空宇宙・次世代産業課長）

飯田　佳弘　（岐阜県工業会　専務理事）

評　価　活　動

令和７年１０月２７日　評価資料に基づく事前評価（書面）

１１月１０日　委員会開催

・航空宇宙生産技術開発センターおよび県からの
　概要説明・事業報告
・質疑応答
・評価結果審議

評　価　結　果

1　プロジェクトの推進に関すること

項目	評価点
プロジェクトの体制等は適切か	4　優れている
実施スケジュールと実施状況は妥当か	4　優れている
予算配分と執行状況は妥当か	4　優れている
KPI 達成に向けた取り組みは十分か	4　優れている

・全般として、非常に良い形で実施されている。

・KPI は、その設定が難しい中で良く設定・評価している。

・大型実証スペースであるトライアルフィールドをうまく活用している。

・製造業の人材確保、供給力強化が大きな課題となる中で、企業との共同研究・実装事業は、件数のみならず、質の向上、仕組みづくりでも大きな成果が出せるようになってきている。

・東海国立大学機構の組織としての強みを活かしたコンカレントエンジニアリングが作られることを期待する。

2　人材育成に関すること

項目	評価点
カリキュラムと実施体制は適切か	5　非常に優れている
実施状況は十分か	5　非常に優れている

・設計と生産は両輪であるため、名古屋大学、産業界と連携し、「設計・生産融合人材育成プログラム」を実施していることは、実装段階での課題発見能力の向上にもつながり、良好である。特に飛行実証まで含んでいることは高く評価できる。設計・生産の先にある認証取得に関する教育についても積極的に検討いただきたい。

・岐阜大学と名古屋大学の交流も含め、全体として企業の期待するカリキュラムが非常によく考えて設定され、しっかり実施されている。

・企業現場をトライアルフィールドとした即戦力の育成は良好であり、学生、社会人の混成チームによるカリキュラムは相互に気付きが期待できるので、高く評価する。

・地元企業への人材の定着は難しい課題であるが、結果として、地元就職者が事業開始前の 1.5～1.8 倍に増えたことは、大きな成果として評価できる。

・愛知・岐阜は日本の航空産業の基盤であり、米国シアトル、仏国ツールーズに匹敵する地区を目指していただきたい。

３　研究開発に関すること

項目	評価点
＜本枠(航空機機体産業)に関する研究開発事業について＞ 自走しながら着実に研究開発を実施しているか	4　優れている
＜展開枠(その他産業)に関する研究開発事業について＞ 蓄積した技術を地域産業に展開する事業内容と実施体制は適切か	4　優れている
進捗と成果の状況は十分か	4　優れている

・全般として適切に実施されている。

・「情報学、工学の融合によるサイバーフィジカル工場」は、昨今の航空機開発におけるトレンド（デジタルツイン）に沿ったものであり、評価できる。

・社会実装に向けた企業との連携も良好と評価できる。成果の社会実装を見据えて進められ、研究者に評価のフィードバックもされている。要素技術の開発のみならず、航空機サプライチェーン全体の課題解決に向けて海外 OEM とともに産学連携で取り組む CSAP の枠組みづくりを主導したことも高く評価できる。

・展開枠についても、多種な業種の地域産業のニーズに即した活動を進めており、進捗も良好である。また、評価基準も適切である。

４　地域への展開に関すること

項目	評価点
センターで育成した人材の地域産業への定着の取り組みは適切か	4　優れている
センターで開発した技術の地域産業への普及の取り組みは適切か	4　優れている
地域ニーズを掘り起こし、活動の幅を広げるための活動は十分か	4　優れている

・社会実装ロードマップを作成し、着実に展開を進めている。航空機産業はサプライチェーン全体での生産効率化が求められており、今後、サプライヤーへの展開も重要となる。

・アウトリーチも良好と評価する。

・「２　人材育成に関すること」にも記したが、地元就職者が事業開始前の 1.5～1.8 倍に増えたことは、大きな成果として評価できる。

５　今後の取り組みに関すること

項目	評価点
センターの自立への取り組みは十分か	４　優れている
大学改革につながる取り組みになっているか	４　優れている
生産技術の人材育成と研究開発の拠点となるための取り組みは適切か	４　優れている

・総体的に良好と評価する。

・令和５年度から自走化、外部資金の獲得も進んでおり、実績も上げている。

・社会実装には学内外の研究者、現場力の高い企業が連携して知見を高め、プロジェクトを俯瞰的にマネジメントできる統括管理者が必要になるが、大学改革に向け、ビジョンを描いて取り組んでいる。岐阜大学と名古屋大学の連携という他大学にはない優位点を活かした改革も順調に進んでいる。大学教員の人事制度改革も優れている。

・NEDO 先導研究プログラムと CSAP は、機体メーカの世界的な課題の解決に向けた研究開発に大学が参画するものであり、本プロジェクトの成果が世界的に認められていることを示していると言え、高く評価することができる。

（以上）